

早稲田ヨットクラブ

# 会報

第9号

昭和56年3月 発行  
 発行者 舟岡正  
 事務局長 舟岡正  
 会費振込先 日本橋支店  
 第一勧業銀行  
 普通預金 一四四、五七三九  
 口座番号  
 ワセタヨットクラブ 杉山博保

## 杉山理事長、舟岡事務局長を選出!!

### 五十六年OB総会

去る一月二十三日東京丸の内永楽クラブに於て五十六年度OB総会が開催されました。席上、新理事長に杉山博保氏①、新事務局長に舟岡正氏②が選出され

満場一致にて承認されました。次いで理事及び役員が選出承認(別掲)されむこう二年間は杉山新体制で運営されることになりました。

### 『新理事会の発足に際して』

杉山博保

過る一月二十三日、丸の内永楽クラブに於て催された、新年会を兼ねたOB総会の席上で、新理事が承認され、新理事会が発足した。

昨年の小沢会長の古希祝い同様、関西のOBの参加もあり盛会であった。議事もとどこおりなく進み新年会にうつったが、最後迄、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しい一時を過ごすことが出来た。

ここで簡単に新理事会発足の経過を述べたい。昨年七月の理事会の席上、限理事より「我がクラブの諸々の大きい事業はおおむね四一才代でやってきた。早風の建造然りで、そろそろ四十才代のOBを中心として会を運営したらどうか」

との御提案があった。その後の例会で「杉山、お前が首頭を取ってやってみろ」という様な雰囲気になってしまった。そこで私以下若い理事諸君に御参集を願ひ協力方を御願ひした処、皆快く協力を約束してくれた。そこで新事務局長の舟岡君經理の浜田君、長い間監督をやってきた加藤君、若手OBの代表らを主な相談相手とし、新理事会の構想、新理事の選出を行なった。

小沢会長、堀江理事長以下の主だった理事の承認も戴き、後日新理事予定者の会合をもった。ワセタヨットの伝統を正しく現役諸君に伝え援助する。OB相互の結束をより強固にする等の点で意志の一致をみた。若い、行動力と情熱ある新理事諸君と今後運営をはかる事になったわけだが、諸先輩、OB諸氏の心からなる御指導、御鞭撻を御願ひする次第です。

### 昭和56(57)年度 早稲田ヨットクラブ新役員紹介

52	50	49	48	47	46	"	45	44	43	42	"	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	"	31	30	29	28	卒業年度		
大型艇(会計)	大型艇	大型艇	大型艇	大型艇	大型艇	大型艇	助監督	助監督	助監督	助監督	助監督	総務	大型艇	広報	総務	広報	監査	担当	理事	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	氏名	氏名
岩崎 誠	青木 博和	三塚 正文	杉井 謙治	町田 吉生	原田 浩二	大矢木 一	北島 武夫	高須 満	宇津木 毅一	佐々木 肇	小坂 順孝	頼 義人	松島 弘行	斑目 宗雄	木村 光成	石田 晋也	原田 弘	尾崎 幹亮	北河 泰治	清水 栄太郎	山県 一郎	舟岡 正	杉山 博保	浜田 裕	米田 秀久	河村雄三郎	氏名	氏名	

56	55	54	53	卒業年度
大型艇(総務)	大型艇(総務)	大型艇(総務)	大型艇(総務)	氏名
野口 正文	北川 邦弘	白石 裕文	中島 健治	氏名

51	43	15	46	30	29	16	51	40	28	17	卒業年度
九州	九州	九州	九州	九州	九州	九州	九州	九州	九州	九州	氏名
冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	冬至 真也	氏名

### 特別会員 故 羽生典正殿

去る一月九日かねてから療養中のところ、胃がんの為ご逝去されました。先生は二年前まで防大医務室長及ヨット部長をしており、たまたま小島合宿所が近いとムウ事で合宿練習中の急患の主治医としてお願いし、又OB会では特別会員に推せんご協力いただいております。享年六十五才、茲に謹んでご冥福をお祈りいたします。

55年度会計報告及び

56年度会費・寄附のお願い

55年度は一三七名(内同時寄附四八名)が協力、納入率36%に向上しました。

56年度の年会費は一万円です。

55年度会報や募金のお願いを通じて皆様へ呼びかけた結果別記一覧表の如く各位の協力をいただきました。

皆様のクラブに対するご支援の厚いことをお礼申し上げますと共に引き続き56年度のご協力をお願いします。又連絡が届かず遅れている会費がありましたら何回に分けてでも結構ですのでご協力下さい。

ご寄附いたゞけることがあれば幾らでも結構です。明細を記入の上、お振り込下さい。納入いただいた皆様にはその都度、理事長名でのお礼状を差上げて居りますのでご確認下さい。

なお今年度より専用の振込用紙を作成してご連絡申し上げます。代表者を変更しましたが口座番号は同じです。(浜田)

会費・寄附振込先

第 勤業銀行 日本橋支店

普通預金口座 一四四五七三九番

ワセダヨットクラブ

杉山博保(スギヤマ ヒロヤス)

55年度クラブ会費納入者一覧

年度	在籍	氏名
10	1	小沢
12	1	藤村
13	3	新名・村馬・増井
14	6	植松・宮川・永元・間瀬
15	7	堀江・高木・堀・中塚
16	19	

41	16	江上・森・齊藤・長沢
40	14	松島・小島
39	8	大・千葉・杉山・山中
38	11	浅野
37	13	原田
36	11	石田・角田・伊藤・小沢
35	6	吉田
34	14	山田・大野
33	7	原田・土肥・原・足立
32	10	清水・加藤
31	9	山崎・渡辺・中田・塚崎
30	12	武村
29	7	山崎・渡辺・中田・塚崎
28	12	岩本・遊佐・高島・浅山
27	5	松本・浜田・是枝
26	9	金沢・米田・安藤・米田
25	8	石川
24	3	河村・大塚・村瀬・大津
23	4	木本
22	11	漆原・渡辺
21	7	伊井
20	4	宮本・湯沢・新井
19	9	宮本・湯沢・新井
18	6	野木・坪田
17	14	金子
16	14	隈部・高木

41	小浜・八藤丸・小坂・滝
40	後藤・瀬・石井・岡田
39	石合・千津井・岡戸・豊田
38	冬至・宇津木
37	高須
36	北島・大矢木
35	原田・瑛目
34	浜田・横山
33	林
32	恒川・藤井・近岡・青木
31	赤松
30	冬至・大嶋
29	角田・川瀬・岩崎
28	野口・斉田・橋本・渡辺
27	酒井
26	小川・北上
25	井上・伊熊
24	計 三八〇名 納入者計一三七名
23	合計一、三九〇、〇〇〇円

55年度収支決算書

(55年1月1日~55年12月31日) 会計担当 浜田

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	175,154円	ヨット部 援助	1,146,441円
年会費	1,390,000	稲 竜	654,250
寄附金	889,650	関西へK16	93,000
会費	342,500	会 合 費	394,733
受取利息	4,208	諸 会 費	109,500
		保 險 料	11,059
		謝 礼・慶弔費	50,940
		印刷・通信費	320,143
		次 期 繰 越 金	21,446
合 計	2,801,512	合 計	2,801,512

第19回 早風会

11月16日(日)、在りし日の早風を偲んで、三戸浜小島合宿所にて、恒例の早風会を開催。ご家族の方々、多数のOB又奥様も楽しい行事になりました。今年はお家全員で皆様ご参加下さい。多数のご寄附、お手伝い、ありがとうございました。

早風会世話人一同

### 第十回四大学OBレース

早慶同関四大学OBヨットレースは十五日五日江の島で行われました。

シーホース、レーザ、OPテインギの三種目でレースをしました。

当日の天気は快晴、風は第一回戦が3m第二回戦が5m程度の南風で、若手OBにはともかく、中年過ぎの選手には安心してレースが楽しめる上々のコンディション。

わがワセダは米田(秀)、千葉(浜田)、日色、中田等昭和三十年前後の名選手や、小坂、宇津木、野口、大原等の若手選手が頑張る、もう一步の所で昨年について連続優勝する所でしたが、慶応のジュエリート福吉選手がOPで連続一位をとったことには生まれ、わずか二点差で二位



となりました。

総合結果は、慶応、早稲田、関学、同志社という順位でした。

今回は早稲田が運営当番であった為、OB学生諸氏に協力していただきました。

本部艇を前夜から泊り込みで指揮してくれた菊池君、レース運営を担当した松本さん、観覧艇の月光を出して下さった並木君、大原君、空からセスナ機で応援してくれた清水(栄)君等、皆さんのお蔭で立派な運営が出来、他校OBも大変喜んでいました。

四大学OB戦はレースも良いですが、前夜祭が楽しいものです。

今回は横浜の岡本造船の上にあるYCCで前夜の午後六時から開き、約五十名が参加しました。

古いOBにはなつかしい場所だけに、話がはずみ、各校別の歌合戦では、写真にある様に松山大先輩が大張り切りでした。

小沢会長は当日三戸浜の小島合宿所から野生のクコの夫を持って来てクコ酒を自作して皆にす、め張り切っていました。クコ酒が効き過ぎたらしく沈寸前でした。

同志社の秋山さんはいつものヨカナンをやり最後は慶応の磯村君が岸壁で花火を打ち上げ散会となりました。今回は同志社の当番ですから琵琶湖でレースが行われます。今迄参加する機会が無かったOB諸氏も是非一度お出かけ下さい。楽しむことを保障しますから。(舟商)

### 関西・早稲田ヨットの動き

米田 晴 二

☆大阪にも、ウチのクラブの溜り場所が出来ました。梅田の近くで阪急芝田ビルにある大阪早稲田倶楽部がそれです。

七月十日(木)、久しぶりの関西例会を開催しました。参加したのは次の面々。

宮川清(15)、中塚勝三(10)、坪田善男(11)、円谷忠(28)、石川武男(29)、米田晴二(29)、中沢弘(30)、安藤順一(38)、宮本能久(48)、浜田全紀(48)、加えて白井(42)、この人は若松主将(40)の頃の合宿に参加していたが、誰かとケンカしてやめてしまったとゆう大阪早稲田クラブの会員です。ヨットの集りありときいてなつかしさの余り参加。

西宮でのインカレ、桶龍のクルーズイング日程とそれへの参加。関東からK16の寄贈を受ける件、小沢さんの古希祝への関西の祝意、今後の会合の方法、はては健康談話など。

8月15日(土)18日のインカレには多数OBやお客様を迎えて観戦しました。全国から集った22校の中で最も特色のある応援風景を展開したといえましょう。

昨年大阪へ転勤、目下家族の関西ならしに苦勞中の由良精造(30)氏も女性陣を伴い熱烈応援。

☆西宮でインター・カレッジ前夜

8月12日 学生達の合宿する旅館に、宮川・中塚・石川・米田OB訪問。レース前の激励と西宮沖の風や潮の特徴など。

「明るい楽しいヨット部にせよ。学生時代の勉強は簿記だけはやっておけよ。」と中塚さん。この先輩には歴代の学生達

が、今病床の田原先輩と共にお世話になっていきます。

「勉強といえば、英語ともう一つの外国語しゃべれる様にしとけよ」と宮川先輩。ヨットで外国遠征されたり、東京オリンピックのボートマンをされたり、外国のヨットマンを迎える名門、西宮ヨットハーバーの主としての学生へ贈る言葉でした。

菊川誠 (19)氏からビール一打。安藤順一(38)氏より金一封が当夜の為に寄せられた。前記四名も寸志寄附させてもらった。昔と違って、西宮の海は油に汚染されてココロの色。海の美しい和歌山の学生が、ある時「こんな海でのヨット。レースでもしとらな、仕様ないな」とつぶやいていた。

天候は、冷夏の雨と曇天の連続。前線があたりをフラフラ。学生達には、豊富な経験を与えてくれたと思う。

参加OBは西宮駅前、金龍館に陣取って賑やかな督戦風景を現出。加藤監督、北島助監督、安藤講師の他、若手コーチ陣。斑月寿明(46)、尾原健太(47)、藤井達也(50)、川瀬修平(52)、角田貴士(52)、橋本一彦(53)、大原義昭(53)、伊熊孝雄(54)らの面々。これを受け止めるのは現役キャプテンも大変だったろう。

海上には勿論、小沢信三郎会長、松本富士也(30)氏のオリニック監督らが帆走委員として目を光らせておられた。宮川さんのスクラップ号もえび茶色。

☆初秋を迎えて九月。K16を迎えて関西のOB達は、また、新しい動きが始まるとしてあります。

### 稲竜・西宮廻航記

杉井謙治

昨年八月一日、一昨年の仙台松島行に引き続き、五十五年度インカレ西宮大会に出場の小型艇の応援の為、又OB諸兄並に現役諸君との間の自然の中で交流の場として、稲竜は西宮に向け油壺を出港、往路六日間、復路五日間、途中洲本サントピアマリーナ、西宮ヨットハーバーに停泊、八月二十三日無事油壺に帰港しました。

一、参加者(乗艇日順・敬称略)  
 OB、杉井<sup>④</sup>油壺<sup>⑤</sup>洲本、酒井<sup>③</sup>油壺

三木浦、洲本<sup>⑥</sup>西宮、坂爪<sup>⑦</sup>油壺<sup>⑧</sup>下田、橋本<sup>⑨</sup>下田<sup>⑩</sup>西宮、米田<sup>⑪</sup>三木浦<sup>⑫</sup>洲本、尾原<sup>⑬</sup>洲本<sup>⑭</sup>西宮、川瀬<sup>⑮</sup>洲本<sup>⑯</sup>西宮、角田<sup>⑰</sup>洲本<sup>⑱</sup>西宮、野口<sup>⑲</sup>西宮<sup>⑳</sup>油壺、齊田<sup>㉑</sup>西宮<sup>㉒</sup>油壺、北川<sup>㉓</sup>西宮<sup>㉔</sup>油壺、現役、長谷山<sup>㉕</sup>全航程、川上<sup>㉖</sup>油壺<sup>㉗</sup>洲本、芝崎<sup>㉘</sup>油壺<sup>㉙</sup>洲本、黒田<sup>㉚</sup>油壺<sup>㉛</sup>洲本、埴<sup>㉜</sup>西宮<sup>㉝</sup>油壺、森田<sup>㉞</sup>西宮<sup>㉟</sup>油壺、渡辺<sup>㊱</sup>西宮<sup>㊲</sup>油壺

二、航海日誌抜粋

七月三十一日 出港前夜祭、宴たけなわの頃、予定外の酒井氏ひよっこりと来艇。聞けば大阪で米田氏と相談の上、油壺から三木浦まで乗艇と決ったとの由。遠州灘の長帳場があるので、強力な援軍のお出ましにお、助かり。

八月一日 五時起床、昨夜来の小雨の為八月の初旬と云うのに膚寒く中秋の朝みたいだ。

06・15 油壺出港、曇、NW8米/S 現役は緊張の為か、身体の動きが今ひと

つ稲竜に合っていない。パウバルピットのS管でスピンのフットを一枚とも破がぐ、これから先が思いやられる。

14・40 下田港着、下田ボートサーピスの前に訪う。夜、「たわら屋」で稲竜一同の激励の宴を伊藤OBに張っていた。おかげでちよつと元気の無かった現役諸君も目つきが変った様だ。

八月二日

10・00 夜来のNEの強風も少しおさまり一四五マイル先の三木浦へ向け出港、2ボーン、ビッグ2ジブ、石廊崎は楽にかわせた。東海中に前線が停滞しているため、うつつらしい。

17・00 御前崎まで一・五マイル、ナイトセーリングの準備を指令。

22・30 浜名湖沖、稲竜にUFO現わる?、発見者橋本氏談「雲に遮えざられて直接確認は出来なかったが、月でも飛行機でもない、青色く光る数個の物体が稲竜の頭上を鋭角的な運動をしながらしばらくくつついてきた」と。

他の者にとつてはそれのこと自体が未確認飛行物体であった。

八月三日

12・30 昨夜の雨の中の帆走にクルー全員少々バテ気味、長谷山ナビの名?ナビゲーションによって稲竜も無事三木浦に到着、酒井氏降艇。米田氏入れ替りに乗艇。大変不便な所との事で、米田ヨットマンのヨットに乗ることに傾ける情熱に皆感激。

八月四日

07・30 出港、この日から洲本に着くまで米田教授の紀伊半島における人文地

理の名講座が開かれ、稲竜洋上大学のカンパンを掲げることとなる。

14・00 串本新港に入港。保安庁の手入れがあり、書類一切調べあげられる。係官云く「早大ヨット部みたい組織のしつかりしているところは問題ないのですが……」と。

出港まで免許のことですつたもんだやっていたので、何ともおもしろい気持ちだつた。

八月五日

06・00 出港。足摺と室戸あたりに前線、毎日くくの雨空にヘキエキ。真夏の日射が欲しい。

07・00 潮岬通過。

08・00 高曇りながらようやく写真日よりとなる。米田氏キャブテン帽をかぶり昔とつたキネツカに一人酔いしれる。ティラー握るその姿もいぶし銀。その姿を写真に納める。

背中、あと数年後、この写真がきつと役立ち、ご家族の皆様喜んでいただけるとひやかす。と誰か口の悪いヤツが日誌に書いてあったのを、私は唯写しただけですので……。

現役諸君も米田先輩に負けてはならじと、精一杯おめかしをして、誰にあげるのやらフラッグなどの小道具まで持ち出して、カメラの前で張り切っている。この顔が昨日まで青くゲンナリとしていた顔とはねえ。ようやく稲竜の生活に皆なじんだよう何かとにぎやかである。

15・30 由良入港。日本一周の時は湾の入口の小さな突堤に舫いとつたが、今回は湾の一番奥まった船だまりに舫う。

奥深い湾なので非常に静かだ。

19・00 最後の晩サンである。

皆「戎湯」という百十円で入れる風呂屋でアカを落し、晩サンに備える。

コックピットの中はランプのあかりのもとに長谷山上期がヨット部で鍛えた腕によりを掛けて作った料理がところ狭しと置れている。酒杯が飛かい宴もたけなわになる。その時の雰囲気は陸の生活では味わえない何とすばらしいものかと思う。海が好きで、ヨットが好きだということだけで集うた者だけに得られる特権なんだなと思つたりもす。そこに理屈はいらない。

01・00 消燈。

八月六日

06・30 由良出港。天気は良いが風なし。機帆走。

12・00 サントピアマリーナ入港。

中沢先輩の出向えをうける。マリーナは小ぎれいな気持のよいハーバーだった。中沢先輩に昼食をよばれ、米田さん、私はこれでお別れである。六日間という短い期間であつたが身心ともに益々若返つた様だ。

現役の諸君はこの後中沢先輩に大変お世話になり、洲本の方向に足に向けて寝られないと云っていました。(了)

#### お知らせ

会報の編集委員が替りました。原稿は左記宛お送り下さい。又、一行は十八字詰です。クラブに対する意見、ご希望等何でも構いませんから、多数寄稿下さい。中央区日本橋小網町二七七(〒103)

TEI.0三六三三六八七松島弘行